



カット野菜の利用頻度 単身男性3割「週1日以上」

J.C.総研「野菜・果物の消費行動に関する調査」(全国の主婦・既婚男性・単身男性・単身女性2097人対象、2014年調査)より。

●野菜の買い物1回あたりの平均購入金額は、762円と前回調査(728円)よりやや増加した。単身女性で大きく増加し600円を超えた一方、単身男性は減少し、それ程大きくなかった単身女性との差が200円近くに開いた。

●野菜の購入先については、1位が「スーパー」で95.4%と他の購入先を大きく引き離している。以下「青果専門店」21.2%、「農産物直売所」18.6%と続く。「コンビニ」は10.5%(前回8.1%)に増加。また、カット野菜を購入している人に主な購入先を尋ねたところ、1位が「スーパー」で93.6%、2位は「コンビニ」18.5%だった。

●サラダ用カット野菜を食べる頻度は、週に1

多く、70代以上でも同様の傾向がみられた。

日以上「24.1%」週に1日未満「29.6%」、全く食べない「46.3%」と、4人に1人が週1日以上利用している。単身男性は「週に1日以上」37.7%が「全く食べない」32.7%を上回り、既婚層および単身女性の半数が利用しないと回答した。一方、料理用カット野菜については、「週に1日以上」17.7%、「週に1日未満」29.4%、「全く食べない」52.8%とサラダ用に比べて利用頻度はやや少ない。主婦、単身女性で「全く食べない」がほぼ6割に上った。サラダ用・料理用ともに若年層ほど利用が

多く、70代以上でも同様の傾向がみられた。

重視している点は、「鮮度が良い」66.1%、「販売単価が安い」48.6%、「国産品である」42.9%が多かった。品質へのこだわりは高年齢層ほど強い。一方で、「販売単価が安い」「特売で安い」は、若年層でポイントが高く、低価格志向の強さが伺える。

理由については、「料理の手間を省けるから」62.5%、「すぐに食べられるから」52.3%がともに半数を超えた。次いで、「量が適当だから」36.2%、「いろいろな野菜が食べられるから」24.3%の順となり、「値段がお手頃だから」は概ね2割にとどまった。「料理の手間を省けるから」は単身男性と若年層で7割に、「いろいろな野菜が食べられるから」は単身女性と高年齢層でポイントが高かった。高年齢層ほど「量が適当だから」のポイントも高い。

●野菜を購入する際に

●野菜売り場や商品に対する要望については、「産地のことを紹介して欲しい」38.3%、「農薬の使用状況を紹介して欲しい」32.5%、「収穫日・出荷日を紹介して欲しい」31.5%と続き、「野菜の種類(特性)を紹介して欲しい」「食べ方を紹介して欲しい」は、主婦、単身女性の女性層で関心が高かった。